

# オペラ「高野聖」×山田ゼミナール ～地域文化を拓くオペラコラボレーションの取り組み～

団体名●山田ゼミナール／代表者名●山田範子（女子短期大学部・教授）

## はじめに(背景・目的・目標)

山田ゼミナールでは、文学作品を多角的に読み解く研究等に取り組んでいる。本活動は、11月23日(日・祝)に金沢歌劇座で上演されるオペラ「高野聖」とのコラボレーションとして、来場者向け小冊子を制作するものである。

泉鏡花の小説『高野聖』は、独特の語りや表現、幻想性を特徴とする作品である。山田ゼミでは昨年度より本作品を扱ってきたが、今回はその文学的特質を「オペラ」という異なるメディアと比較しながら言語化し、一般の来場者にもわかりやすく伝えることを目標とした。

本活動の目的は、①文学研究で培った読解力・分析力を社会的な発信へとつなげること、②オペラ鑑賞の手がかりとなる小冊子を制作することで来場者の理解と関心を深めること、③学生が外部機関との協働を通して、実践的な学びを得ることである。

## 活動内容(参加学生 18名)

5月13日にオペラ関係機関の方々をお迎えし、企画の趣旨や小冊子制作の目的について説明を受けた。これを受け、前期ゼミではグループごとにテーマを設定し、冊子掲載を見据えた研究を進めた。

研究成果は、7月23日に開催された短大部オープンキャンパスにて発表し、その後、夏休み期間中に内容の再検討とブラッシュアップを行った。9月初旬には、小冊子原稿を主催者へ提出した。

9月30日のゼミでは、冊子完成に向けた最終段階として、関係機関の方々に再度来校いただき、冊子タイトルや加筆・修正すべき点についてディスカッションを行った。

さらに、11月2日に石川県立音楽堂カフェ・コンツェルトにて、小冊子制作の過程で得た学びを報告した。小冊子の内容が、オペラ WEB サイト等で広く公開された。

11月23日のオペラ当日は、ゼミ学生がご来場のお客様に小冊子を手渡した。その後、学生自身もオペラを鑑賞し、自ら分析・言語化してきた原作表現が舞

台上でどのように表現されているかを体験的に確認した。これにより、研究・制作・鑑賞が一体となった学びが実現した。



成果発表会の様子

## 成果、結果の考察

本活動を通して、学生は原作小説における表現の細部に注目し、それをオペラという別メディアと比較しながら分析する経験を積んだ。特に、語りの視点や言葉の選び方が作品世界の印象形成にどのように関わっているかを具体的に示そうとした点は、オペラスタッフの方々からも高く評価された。また、小冊子という「来場者向けの媒体」を意識することで、専門的な内容を平易な言葉で伝える工夫や、構成・表現の重要性を実感することができた。外部機関との協働や意見交換を通して、学生自身が自分たちの研究を客観的に見直す機会にもなり、学びの質が一層深まったと考えられる。

## 今後の課題、展望

今後は、本活動で得た知見を地域文化との協働といった新たな取り組みに発展させていきたい。また、若い世代に文学やオペラの魅力を伝える実践として、本活動を今後のゼミ活動や教育内容にも活かしていきたい。